

# なほ

3月号  
vol. 145

ブロックデ  
アメンナイ

特集

# どじどじ

③ まだ、はじまってもいないのに

「ワカリマシタ」  
千本南1丁目付近にて撮影

2018年1月からゆ〜とあいは居住支援法人のなかま入り。まちの人の相談の中で「このまちの公営住宅や古い木造住宅をもっと活かさなきゃ。」そんな気持ちがふつつあふれてくる。ヒントを探しにいろんなとこへ、いろんなひとに。

# ゆ〜とあひ

③ まだ、はじまってもいないのに

## 大東市のPPP・PJ

2018年12月5日「読売新聞」に「官民連携 市営住宅再生へ（北条プロジェクト）」という大きな記事が掲載されていた。大東市が公営住宅の建て替えをPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：官民連携）で実施するらしい。市有地を事業目的会社（SPC）である東心（株）が事業用定期借地（50年間）し、民設民営の公的住宅を新築する。建設費約14億円。築40年以上経過した飯盛園第二住宅（144戸）を、木造民間賃貸住宅80戸と民間テナント棟に建て替えて、借上公営住宅として運営する。

応能応益の大規模な公営住宅ではコミュニティバランスの確保は難しい。もともとごちゃ混ぜの公営+民間住宅だったなら、新しい公営住宅像が探れるかもしれない。このプロジェクトを仕掛けた「大東市公民連携まちづくり事業株式会社（愛称：コーミン）」にお話をうかがった。

## 身の丈に合った公共を

コーミンは、大東市や民間企業が出資して設立したエージェンツ型の第三セクター。「大東市より大東市！」をスローガンに、大東市のまちの価値を高めるための公民連携事業を企画運営する会社である。代表取締役の入江智子さんは大学卒業後、大東市に入職した元公務員。設計士でもあり、建築を主なフィールドに市有財産のマネジメント分野で活躍してきた。

適切な維持管理を計画的に実施しようにも予算に左右される現実や潤

沢ではないこれからの財政事情など、公共施設管理の難しさを入江さんは実感してきた。公営住宅の管理では、高齢化に伴うコミュニティ維持や新規住民とのつながり構築、公園では禁止事項ばかりのルールなど、様々な問題を目の当たりにしてきた。そこで、公がすべてを丸抱えするのではなく、「公の持ち分を減らす代わりに、受け持った分は適切に管理する」身の丈に合った公のあり方を考えることが多くなっていた。

時を同じくするように、大東市の人口は1998年の13万1096人をピークに2015年には12万3397人まで減少していた。大東市は2015年に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定め、まちづくり人材の育成や住民自治の推進など、PPPやPFI（※1）を活用し、官民連携でまちづくりに取り組むことを決めた。そこで、白羽の矢が立ったのが、入江さん。2016年4月から9カ月間、岩手県紫波町に派遣さ



入江智子さん



れ、町有地を活用し、民設民営で公的な施設を運営するオガールプロジェクトを学んだ。同じ発想で市営住宅の建て替えができないか。まちづくりエージェント「コーミン」の北条プロジェクトが動き始めた。

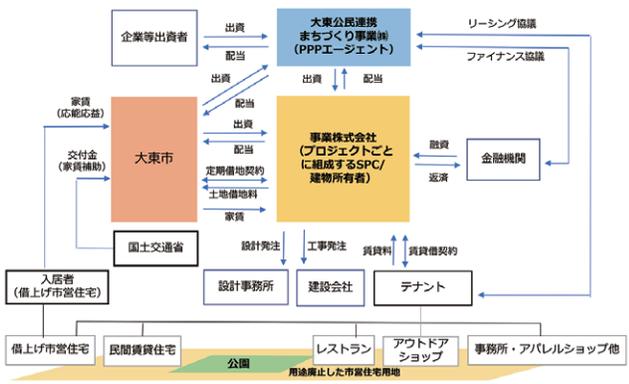
### 🏠 わくわくできる公営住宅を

民設民営の公営住宅をやりとげるにあたって、入江さんには3つの大きな心配事があった。1つ目は入居者の合意、2つ目は役所内の合意、3つ目は資金調達だった。住民参加型のワークショップを重ねても、意見がまとまらず事業が進まなかった経験もある。思い切った行政事業は、庁内調整に時間がかかることも知っていた。そして、何よりも実施主体になつてくれる民間事業者には当てはなかった。入江さんは「解決策は1つ」と覚悟を決め、とびつきのプランで、住民・市役所・銀行のみなさんにもわくわくしてもらおうと考えた。公正・公平が基本の公共事業では入札以外はな

考えてきた銀行も、東心もほっと一安心。だが、コーミンの目指すところは、いろんな世代が住むコミュニティミックスな公営住宅で、入居者もイキイキ、健康に自分らしい人生を送れるようジャンプアップできることだ。他市からの子育て新婚世帯にも入居してもらったり、暮らしぶりをSNSで広報してくれる住民に家賃補助を出したりと、いろいろプランを練ってきたが、それらを試す余地がないほどに住民が戻ってきてくれ

なか受け入れられないが、民間では当たり前前の「あなたと仕事をしたい」を最優先に、イメージ形成と設計だけは、コーミン主導で業者を選んだ。

新築の借上公営住宅は前例もあまりなく、難航が予想された庁内調整は、地方創生局長が引き受けてくれた。でも、リスクを背負い、従前入居者の合意形成ができる事業者がみつ



たことは、うれしい誤算だった。

### 🏠 まだはじまってもいいのに

とはいえ、冷静に考えると、着工するのが今年の7月で、完成は2020年春の予定。まだ、始まってもいないプロジェクトがここまで取り上げられていることに入江さんは戸惑っていた。しかしすでに、住民が参加できる住宅管理の手法を模索し始めていた。「月1回はnorth objectと合同で公園清掃したらどうだろうか?」「住民自治を育む管理は自前委託どちらがよいか?」などなど。その姿は、自社の収益ばかりを考えるのではなく、エリア全体の魅力向上を考えているパブリックマインドを持つ民間人だった。公民連携にはキーマンがいるものだ。

官民連携による住宅再生・まちづくりプロジェクトには、入江さんのような仕掛け人(キーマン)や賛同する起業家、大東市のような大胆な政策が必要になる。私たちが活動するにし

からなければ、この事業は動かない。そこで、地域に精通する起業家らの懐に飛び込み、大東市や公営住宅の将来を何度も語り合って現在の東心(株)の代表と意気投合し、大役を引き受けてもらった。入江さんも公務員に戻れることもできる往復切符を捨て、コーミンの代表取締役になつていった。

### 🏠 うれしい誤算

従前入居者の希望を細やかに聞いたわけでもなかった。また、間取りもまだ公開していない借上公営住宅に、どれだけ帰ってきてくれるかは不安だった。従前入居者の約5割が再入居を希望すると予想し、空室をどうやって埋めようか思案していたが、9割の方が戻ることを希望してくれた。また、テナント棟はイメージを偶然見て、コンセプトに共感したnorth object(※2)がほとんどを借りてくれることにもなった。無担保・無保証のプロジェクトファイナンスで収支計画を共に



なり隣保館(ゆくとあい)も公営住宅が密集する地域にある。時代が変化するとともに住宅課題も変化している。そんな中で、私たちの活動が住宅再生・まちづくりのキーマンになる必要がある。

※1 プライベート・ファイナンス・シーニアチブの略。公共施設等の設計・建設・回収・更新や維持管理・運営を民の資金と経営能力やノウハウを活用して行う手法。

※2 ハに届く豊かな暮らしを実現する。をコンセプトに衣食住の商品を企画提供する民間企業。

文責:西田吉志・田岡秀朋

# にしなりもん

西成にもまだまだ発掘されていない文化資源・社会資源は存在するはず。これら西成産のモノやコトを「にしなりもん」と名づけ、その由来やエピソードを辿っていきます。

## やっぱり落ち着く 7番街の定食屋 つるや

今回ご紹介するお店は鶴見橋商店街7番街にある定食の店「つるや」。ご夫婦二人の経営で現在は2代目。開業して30年以上になるそう。店内はカウンターが中心で、お昼時に伺うと、店内は多くのお客さんでにぎわっていた。忙しいところに取材をお願いするのは恐縮したが、快くOKしてくれ



た。

定食メニューは豊富で玉子料理の定食、丼物の定食、麺類とジャンル分けがされていた。これだけメニューが豊富だと、毎日通っても飽きないだろう。通常価格から100円引きになる日替わり定食は引きが強い。おまけにこの日はカツ玉とじ定食、頼まないわけにはいかなかった。

注文が来るまでソワソワ、店内の様子をうかがっているとお客さんが店員さんに良く声をかけていた。どうやら常連さんがほとんどのようで、アットホームな雰囲気と和む。そのうちにお待ちかねの定食が運ばれてきた。ゴハンに味噌汁、もやしに漬物、そしてメインのカツ玉とじの計5品。600円(日替わり定食価格)でこのボリュームはかなりお得だ。

さて、お味はいかに。カツ玉とじにパツチリ出汁がきいていて、ゴハンがすすむ。そして定食屋さんだけあって、ゴハンが本当においしい。味噌汁も家庭的でも落ち着く。定食はプラス150円で半玉うどんを付けてくれ

るそうだ。麺類を注文しているお客さんも多く、とてもおいしそうだった(人が食べているものが美味しそうに見えるのはなぜだろう)。次に来るときは、麺類を食べようと心に誓い、お店をあとにした。

### 定食の店「つるや」

住所…大阪市西成区鶴見橋3の8の21  
電話…06・6561・6286  
営業時間…11時30分〜15時、17時〜20時  
定休日…日曜日(祝日は不定休)

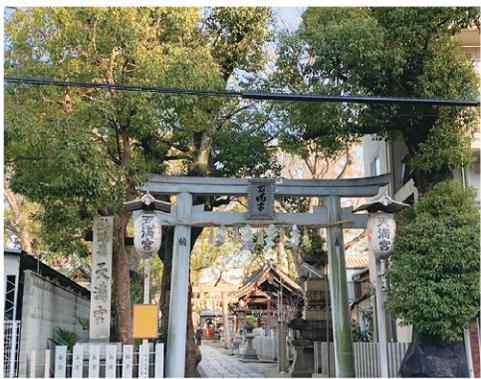
## 豊臣秀吉が絶賛、 天神ノ森天満宮

今回の天神ノ森天満宮は、前々回に紹介した「天下茶屋跡」のすぐ近くに  
ある神社で、阪堺電軌阪堺線の停車場  
「天神ノ森」からも近い。前々回でも  
少し触れたが、「天下茶屋」という地名  
の由来に触れないわけにはいきまい。  
それは、茶道中興の祖である武野紹鷗  
(千利休の師)が天神ノ森に茶室を建  
てたことに始まる。紹鷗は若くして茶

道の極意を感じし、わびの境地をもつて茶道の理想とした。その門人である千利休が、ここに立ち寄った豊臣秀吉に茶屋の清泉を汲んで茶を点でもてなした。秀吉はその味の良さに感激し、天下人の「天下茶屋」として名が知られるようになったという。このような歴史が刻まれた本社には「天下茶屋天満宮」や「紹鷗森天満宮」という別名がつけられている。

神社の由緒を辿ってみると、平安時代前期の昌泰4(901)年、菅原道真が筑紫への左遷の際、住吉明神への参拝の途上で休息したことを機縁に、室町時代の応永年間(1394〜1428年)、北野天満宮の御分霊を奉斎したと伝えられている。現在の本殿は、江戸時代前期の元禄15(1702)年7月に造営されたものである。御祭神には、菅原道真公のほか贈大政大臣正一位・天満大自在藏徳天神がいる。

境内の「天神ノ森」は有名な樹齢600年を超える楠がいくつも聳え立っており、そのうちの13本はな



んと大阪市の保存樹木に指定されているそうだ。これは知らなかった(有名なのに)。武野紹鷗にちなんで「紹鷗社」とも呼ばれている。また、ここの子安石は、淀殿の懐妊の折に豊臣秀吉が安産祈願のために参詣したことから、子安石天満宮としても有名である。岸里周辺を散策する際は「天下茶屋跡」と一緒に天神ノ森天満宮も訪れてみてはいかがだろうか。

文責…山村裕太・寺島史視



【田岡秀朋】初めて実施された障がい者の国家公務員選考試験結果が22日に発表される。13倍の狭き門を突破した676人全員が4月1日から働くのだろうか。それはそれで、あわただしい。



【佐々木敏明】じんけんといふ隠れ装着で湯かめする冬眠と意識しわが意封じ込む逝く人よあかざれ深き世に棲んで



【沖田一志】2年越えのスマホを2台持ちしていると常にどちらかが電池切れ。モバイルバッテリーを手放せません。モバイルバッテリーも2台準備して常に片方が充電中。何か間違ってる気がしてきた。

孤立をおそれず、紙面でつながる地域の輪



住友 宜男(すみとも のぶお)さん

日頃は企業の税務相談を仕事にしている住友さん。ご縁あって、ゆ〜とあいで開催するイベントや地域青年の活動を手伝ってもらっています。趣味はテレビでのスポーツ観戦(特に野球とサッカー)。サッカーはゲームにも夢中だそうで、おススメは「ウイニングイレブン」。これからも地域の活動に積極的に参加してくれるそうなので、顔を見たら声かえてあげてください。今回は「力自慢ほく見えて、じつは…?」なおとなりさんをご紹介します。

# 些事争論

## 『これで古典がよくわかる』

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのもっさり系コラム。

最近、言葉の表記が気になっていく。たとえば「こども」。漢字の「子供」は「従える」という意味が強く違和感があるようだ。なるほど。では、ひらがなだけの「こども」はどうか。今度は筆者に違和感が残る。はっきりとはいえないがただひらがなばかりになるとよみづらくていやだなあとおもうのだがみなさんはいかがだろう。私たちが知らぬ間に期待している表記の働きに関心を置きながら、本書を手にとった。なお本書は、和漢混淆文(漢字と仮名が入り混じった文章)の成立史を導きの糸にして、古典と現代語とのミッシングリンクを繋ぎ直す試みである。

「カタカナ」と「ひらがな」は、かの先進国から輸入した書き文字の体系。漢字を、日本流にアレンジした表音文字である。「カタカナ」は難しい漢文を理解するために発明されたカンニング用の記号。インテリ男子たちが難しい漢字にルビを打ったりして、外国の文法で書かれた文章を自国語に近い形に書き下した。現代の日本語のルビは、この書き下し文にある。

「ひらがな」は、異性への恋心などプライベートな心模様を表現するのに用いられた。男女の出会いがとても限



られていた平安時代、漢字を読まない女性と思いを交わすために、男も女もひらがなで和歌を詠んだ。「ひらがな」は「人の心の中にある感情を核として生まれた言葉」として定着した。

カタカナとひらがなは用途や場面によって使い分けられ、その区別は男と女、公と私、漢文・漢詩と和歌・物語などの社会的文化的区別とセットになっていた。仮名の発生から和漢混淆文までの歴史は、これらの区別をクロスオーバーしていく古典文学の歴史でもある。

国家事業であった『古今和歌集』はひらがなの魅力を公が認めた証しである。その編者・紀貫之が女性のふりをしてひらがなで『土佐日記』を書いた八十年後、女性によるひらがな文学『枕草子』や『源氏物語』は、随筆や物語が女性ばかりでなく広く世間に認められる素地となった。二百年前

## 6月 畳間

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から、紡ぐヒントを探してみる。

### あまじまい

家の屋根や壁がポツポツと春の足音を奏で始める季節になった。昨年の天災も記憶に新しいけど、この季節に気になる雨にまつわるお話を。

建物を建てる時、特に気をつけることの一つに、雨や水漏れを防ぐ「雨仕舞い(あまじまい)・水仕舞い」がある。「仕舞い」とは、材料や部分の端っこ(お仕舞い)を、水を防ぐ形にこしらえること。

水は、あらゆる隙間をぬって思いもよらぬところへ侵入し、周囲を腐らせたリ錆び付かせたりと問題を引き起こし、原因を分かりにくくするので厄介。今は水を通さない素材(コンクリートなど)も多いが、天然素材や材料の継ぎ目や割れ目はそうはいかない。そこで、仕舞いとして水切りなどの止水を施すのだ。水は低きに流れる。だから、屋根でも風呂場でも道路でもあえて傾斜をつけて低い場所を作り、自然の力で排水させる。水の侵入を最小限にするために「水抜き穴」を作ったり、水はけを良くしたり工夫もある。

何事も完璧は大変なので、程よく問題も受け入れながら上手に付き合っていくと、少し楽になる。

(安田拓也)



ややかまぼこ状に反りがある道と両脇の側溝(そっこう)

の『枕草子』に憧れた鴨長明が漢字+カタカナで『方丈記』を、兼好法師が漢字+ひらがなで『徒然草』を著す(33)。普通の日本語の文章+和漢混淆文の原型がようやく登場した。この間、じつに四百年。

和漢混淆文は時代とともにその配分を調整してきた。漢字はビジュアルで意味を表し、ひらがなは日本語を話す者の心をうまく表現し、カタカナは注意を喚起する。「こども」はやや私の領域に引き込みすぎではないか、と思う。もう少し公や共に開いてもいいのでは。

ユーモアに富んでいて、柔らかいのが深みのある知性。そんな印象を抱かせる橋本氏がこの1月の末に亡くなった。「氏の著書を初めて手にした縁」を勝手に感じ取り、追悼の意を込めて紹介することにした(紹介になってないけど)。どうも面白かったので。

追記・内田樹の研究室「追悼・橋本治」  
[http://blog.tatsumi.com/2019/01/29\\_2029.html](http://blog.tatsumi.com/2019/01/29_2029.html)を参照した。ハットとせられた。

ハンブレイ・T  
 橋本治『これで古典がわかる』ちくま文庫、1997・2001年

[安田拓也] 一つの人生に幕がおりた。ゆっくりとおけるその瞬間を共に過ごした。苦しかったと思う。もう落ち着いただろうか。しばらくは、勝手ながら記憶の中で第二幕を演じて。

[西田吉志] 我が娘が今年の4月から幼稚園に入園することになった。同世代では少し遅めの入園なので色々心配はあるけど、体験入園も楽しんで行っている様子なので少しホッとしたかな。

[寺島史規] 先月、初めてiPhoneに変えた。いろいろと悩んだがiPhoneへの憧れで選んだ。これまでの操作の違いはもちろん文字の打ち方や機能など戸惑いが多かった。早く使いこなせるようにしよう。

[谷口円] RPGゲームなどのステータス振り分け(レベルアップ時に攻撃力とか防御力とか、強化したいものを選択できる)は人生と似ていると思うこの頃です。

「社会を知って」「社会に踏み出す」  
そんな L's College Plus の取り組みを  
紹介していきます。

vol.11

悩んで・決めて

それでも、全員が最終的には自分で進路を決断しました。

悩めること。そして決断できること。これも今までの学びと経験があったからこそ、悩んで・決める土台がゆっくりと築かれたのだと思います。そして、今回の決断も長い人生の中で大きな経験として積み重なっていくのだろうと頼もしく思いました。

(文 松尾 有希生)



# ふらすアルファ

エルズカレッジ プラスでは、2年間のエルズカレッジ おおさかの学びをベースに、講座や職業実習・職場体験を通じて、自分に合った社会参加の道を模索してきました。ホテルの客室清掃やスチュワード（洗い場）、古着工場での服の選別を経験してきました。今回はこれまでの学びや体験から進路を考えた1期生のお話です。

夢や目標を持ち、自分の将来を考えることができても、その道を実現する進路はどこなところがいいのかわからないものです。そこで、実際にいろんな事業所を自分たちで探してみることにしました。

まずはいろんな事業所の情報をパンフレットやインターネットで集めることから始まり、見学先や体験先を決めます。そして、実際に体験し、自分の将来像につながっているかを考えます。すぐに行きたい場所が見つかる方もあれば、なかなか見つからない方もいました。どちらにしようか悩まれる方もいました。

大阪府の「生徒フォローアップ事業」を西成高校で実施している関係で、「大阪府教育センター」で開催された事業実施発表会に出席してきた。私が注目したのは「府立桜塚高校夜間」「府立寝屋川高校夜間」「茨田高校」の取り組みであった。夜間の高校には、中学時代に不登校だった生徒や成人してから高校に入学した人など年齢層も生活の背景も多様な人たちが集まっている。そういう雰囲気の中で高校卒業をめざし学習を重ねている姿がよく伝わってきた。

ところで、彼らの卒業を支援する大阪府のこの取り組みは、町の中に居場所を確保して若者の参加を促すやり方ではなく、若者がたくさんいるところに支援者のほうが寄ってきて居場所を確保し支援するというやり方で、新しいアウトリーチの形と捉えると面白い。

ソーシャルスクールワーカー(SSW)の活躍もようやく定着してきたようだ。大阪市や大阪府にはもっと教育行政を充実させていきたい。学校に携わる多くの人もそう感じていることだろう。

(寺本良弘)

# 皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



# い湯かげん

## 「共生雇用率」なんて夢を見たい

2月16日と17日の2日間、大阪で「ソーシャル・ファーム・ジャパンサミット」が開催された。大阪府議会で「ユニバーサル就労条例(仮称)」が審議されている最中の時機を得た催しだった。

国の省庁による前代未聞の障害者雇用率の改定は、厳しく糺されなければならない問題である。しかし、その解決策が雇用率さえ達成すれば済むという「駆け込み雇用」であっては絶対ならない。この際、省庁での障害者雇用が共生社会への先駆になって欲しいと思うから、ボクは「共生雇用率」なんて試論を提案している。ユニバーサル就労条例の骨格となるのが総合評価入札で、その

配点は、価格50点、技術14点、環境6点、福祉30点の百点満点。とくに福祉の内訳に注目して欲しいのだが、①雇用率は最大6・6%(法定雇用率の3倍)まで加点され、②契約当該現場の雇用率は20%(法定雇用率の10倍)が最高点で、5人に1人は障害者が働くことになる。③就職困難者つまり非障害者の雇用にも加点され最高9点。④それぞれに支援メニューと経過観察も審査される、つまり企業の就労支援力、雇用管理能力が評価される。

ところで、大阪方式の総合評価入札の導入は15年前なんだが、聞くところによると、EU(欧州連合)議会が「留保契約(競争を留保してでも社会課題を優先するという意味)」を明記した公共調達指令を加盟国に発したの2014年で、オランダが「社会的便益(つまり総合評価)」を定めた公共調達法を制定したのは2012年。入札改革は大阪方式より10年遅れたが、法律や条例になったのは日本より先行している。お隣の韓国も近く「社会価値法」として法律になるそうだ。そういうえば、随分前に英国から総合評価入札の視察団が来たし、韓



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[若松司] ある日、電車の運転室越しに景色を覗いていると、女性の操縦士が見えるかどうかかわからないのに、カメラを構えた駅ホームの巾着に手を振った。「をかし」かった。

[山村裕太] 先日出張で新潟に行きました。日本酒が有名で500円で飲み比べができるところに行ってみました。おいしいけど、最後のお酒を飲むころには最初に飲んだ味なんか覚えていません。

地域の縁を心でつなぐ



# 心の時間

います」と返ってきました。

この檀家さんにとって、お母様は何もできなくても大切に価値のある人です。世間で価値のある人とは、たとえばノーベル賞受賞者やオリンピックのメダリストなど一般の人には出来ない物事を残した人を言います。また、会社では会社の役に立つ人を価値のある人、役に立たなければ価値のない人になってしまいます。

しかし、この檀家さんにとってお母様は役に立つか立たないかは関係ありません。ただ居てくれるだけで「こころ」の支えになるのです。全ての人に価値がある「みんなちがってみんないい」(金子みすず)という仏様の眼に出会うと、人はもっと優しくなれるのです。

松向寺 通法

先月号の編集作業で誤記が生じておりました。左記に訂正しお詫び申し上げます。

(誤)「変化」という言葉に情しみを乗り越えて行く一筋の光り  
(正)「変化」という言葉に苦しみを乗り越えて行く一筋の光り

## 形も記憶もなくなるから、つくっていこう！

2月にリパティおおさかで、鶴見橋中学校の生徒と教師が中心になって作成した「地域の昔と今の地図」を展示した。地図づくりの際に、西成人権文化センター(西成解放会館)の話をしたが、中学生も教師も「何のこと？」といった感じだった。

考えてみると、西成人権文化センターは2010年3月に、西成青少年会館があった場所に統合され、「市民交流センターにしたり」として再出発してから9年が経つ。9年前と言えば、今の中学生は保育園児で、平均4～7年で異動する教師なら閉鎖された施設の外観を覚えているかどうかという程度だろう。

地図を作成している最中、部落外に暮らしながら部落問題に取り組んでいる講師が東京から来られ、部落問題を伝える際には形あるものが少ないので工夫が必要だと話されていた。気づけば、西成もわずか9年で施設が激減し、その存在を知る人も減る一方だ。

嘆いていても仕方がないので、4月からも中学生や教師といっしょに形になるものをつくっていきたい。

# COUNT 2.99

隣保館などで事業を行う中で感じたことをつぶやいて、西成のまちづくりに役立てていきます！



ナビ編集長 寺嶋公典



## ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

ナビ3月号(vol.145)  
発行日:2019年3月1日(創刊日:2007年1月1日)  
発行:株式会社ナイス  
住所:大阪市西成区長橋3-6-33  
電話:06-6563-1156  
E-mail:info@nice.ne.jp  
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:寺嶋公典  
編集:沖田一志、佐々木敏明、岡田秀朋、寺島史視、西田吉志、安田拓也、山村裕太、若松司(あいうえお順)  
イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>

facebook

